



【出席者】

盛岡商工会議所	会頭	谷村 邦久
	副会頭	鎌田 英樹
	副会頭	田口 幸雄
	副会頭	藤村 文昭
	副会頭	小山田 浩之
	専務理事	菊池 透

魅力ある地域経済の創出を牽引する商工会議所へ

(1) 激動の3年を振り返る。

菊池／あけましておめでとうございます。昨年11月、当会議所の役員・議員選挙が行われ、4期目の谷村会頭のもとで新体制がスタートしました。皆様には任期の3年間、地域経済の活性化に向けて商工会議所運営を牽引いただきたいと思っております。まず、皆様にはこれまでの3年間を振り返り、お話しただけですか。

小山田／私は、前期の2019年から副会頭を務めてきました。特に、県のILC視察団に同行させていただいたことで、ILC誘致に対する視野が広がり感謝しております。その経験を踏まえ、前期は3年間フルに活動するつもりでしたが、コロナ禍でほとんど活動ができず、残念でなりません。この3年間は、国、県、盛岡市の事業者救済対策が中小企業・小規模事業者にとって事業継続の大きな助けになったと思えます。会議所は、補助金給付申請の受付窓口として膨大な事務量をこなしました。円滑な手続きを進められたのは、職員皆さんの尽力。非常に敬意を表する思いです。

鎌田／3年間、いろいろあったのですが、どうしてもコロナの問題は避けて通れませんね。私が従事する放送広告業は、集客してこそその商売で

(2) 「活力ある、魅力ある盛岡」創建のため 会議所が果たす役割は？

菊池／では、2つ目のテーマです。2025年2月2日に、当所は創立100周年を迎えます。今期の3年は長きにわたる活動総括と次の100年に向けた新たな一歩を踏み出す重要な期間。ここからは、谷村会頭が今期のスタートに掲げた5つの重要課題について、皆さんの意見を伺っていきます。

■中小・小規模事業者の事業継続・雇用の維持

菊池／まず、「中小・小規模事業者

成長をめざして活動していますので、目指すところは同じだと思っております。そういった意味ではお役に立てることもあると思います。会議所の取り組みは、支援だけでなく政策提言など多岐にわたっており、経済面から世の中を動かしていく会議所の活動を勉強しながら進めていきたいと思います。

菊池／副会頭の皆さん、ありがとうございます。会頭はこの3年をどう捉えていますか。

藤村／コロナ禍で大変だったのは、やはり会議所の部会・委員会の開催を自粛せざるをえなかったこと。改めて顔を付き合わせて行う情報交換が非常に大事だと感じました。そここそが会議所最大の役割でもあり、いろんな人ととの交流が生まれた先に創造的ビジネスチャンスがあるはず。ぜひ、今後3年間は今までできなかった分も交流しながら、新しい会議所の形を構築していきたいです。

田口／私は、今期初めて副会頭に就任いたしました。私の出身は金融機関であり営利企業ですが、商工会議所とは立場が違います。地方銀行は、中小企業の成長あるいは地域の活性化を支援していくものです。商工会議所も地域の活性化や企業の

谷村／この3年間、私の目指す会議所の活動がほとんどできませんでしたが。震災復興完遂に向けて沿岸に出向くこともできず、日本商工会議所が月1回行う常議員会もオンライン出席がメイン。日商の三村前会頭が掲げた「現場主義」「双方向主義」を実行できず、残念な思いです。一方で、会議所と市や県の連携は強まった3年でした。会議所は政府の施策窓口としての業務が増え、マンパワーの限界を超えるくらい大変でした。それだけ行政から頼りにされたという点でもあり、先ほど小山田さんが職員の努力に感謝したいと話したことに私も同感です。

そうしたなか、岩手県中小企業活性化協議会が行う事業者支援の案件が増えました。盛岡は中小企業や小規模事業者が多く、皆さん大変な状



谷村 邦久／盛岡商工会議所 会頭

の事業継続・雇用の維持」について。厳しい環境下、企業の新しい挑戦に対する後押しはどのような支援が必要だとお考えでしょうか。

藤村／昨年から物価高騰が続き、ヨーロッパでは消費者物価指数が前年同月と比較し10%ほど上昇しています。ところが、日本では、8月の企業物価指数が9%の上昇に対して、消費者物価指数は2・6%の上昇にとどまっているのが現状。価格の転嫁が進んでいない実態があります。中小企業は生産性が低いと言われますが、生産性の分子にあるのが収益。収益アップのため価格を上げることは悪ではないという意識付けが我々には必要だと思います。中小企業組合をはじめ商工会議所が先導し価格転嫁しやすい空気を作ることが大事です。日本商工会議所で進める「パートナーシップ構築宣言」は、サブライチェーン全体の利益のフェアな分担、共存共栄を目指した取り組みですが、会議所や組合がうまく介入していく必要性を感じています。

小山田／私も同じく、当面の課題は価格転嫁だと思っています。あとは今年導入されるインボイス制度への対応。価格転嫁に関しては、原材料、電気料、燃料が高騰するなか、特に法人取引における価格転嫁をスムーズに決めていくことが大事です。

沿岸部の人口は、2011年3月から2万4622人減少しているとのこと。復興4本柱の「暮らしの再建」「なりわいの再生」に関わる就業問題が解決できていないので、雇用機会創出に重点的に取り組む必要があると思います。そこで、三陸沿岸の基幹産業である水産業ですが、将来の食糧危機に備え、獲るから育てつくるへ移行し、養殖に力をいれた水産業拡大に取り組むべき。これは、中長期的な取り組みであり雇用機会創出の即効性はないかもしれませんが、しかし、水産加工品販売は観光業の繁栄にもつながってくると思います。また、これは水産業だけの問題ではなく、工業界などほかの業界とも連携できるのではないのでしょうか。

鎌田／釜石市の「鶴住居復興スタジアム」、陸前高田市の「東日本大震災津波伝承館」いわてTsunamiAMIメモリアル」など、震災のレガシーが各地に建設されました。震災の記憶風化防止、防災や減災につながる教訓や啓蒙の役割を大切にする運動も応援したいものです。未来を支える子供たちに教訓を伝えられる修学旅行の推進を他県に働きかける、そんな役割も担えればと思っています。

藤村／いずれ、地域の産業育成をしないと雇用が生まれません。弊社は宮古に支店がありますが、地元に残

小規模事業者の補助金、IT補助金申請のスタートアップについては、多くの事業者が有効活用できるよう、会議所が融資銀行とともに資金繰り支援を行うことが欠かせないと考えています。

田口／依然として、事業承継の課題を抱える中小・小規模事業者が多いのも現状。商工会議所でも金融機関と連携しながら支援していかないと、せっかく商売がうまくいっていても後継者がおらず、商売を継続できないという課題がのしかかってきます。もう一つ、新たな分野に進出するために経産省が提唱するリスクリング（新しい職業に就くために、また現職で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するため、必要なスキルを獲得すること）についても、大学など高等教育機関と連携を進め、企業支援をしていく必要があるのではないのでしょうか。

■東日本大震災津波被害からの復興完遂

菊池／では第2の課題「東日本大震災津波被害からの復興完遂」についていかがでしょうか。

小山田／インフラ関係はほぼ整備され、県の復興プラン4本柱の一つ「安全の確保」は完遂されたのかと思います。ただ、県の資料によれば「りたい人はいても雇用が少ない。産業の育成が大切です。そして、観光やビジネスなどで沿岸に来てくれる人に対し、地元にあるモノ・コト・サービスといった「価値を安売りしないこと」が大事ですね。

田口／今おっしゃった通り、我々は自らが持つものを安く見積もりがちです。価値あるものは高く売ることが大事ですね。当行も震災復興関係で県産品販売の支援をする機会が多いのですが、思いのほか、値段の高いお酒が人気で在庫が足りなくなったりするんです。市場には自信を持って出向き、適した価値を提供することです。

■ILC（国際リニアコライダー）の誘致実現

菊池／第3の課題「ILC（国際リニアコライダー）の誘致実現」については最初に会頭からお話しいただきます。

谷村／ILC誘致に関しては、正直これ以上何をすればいいのかという気持ちです。私は2012年頃から関わっていますが、県では30年近く継続して取り組んでいると聞いています。国への要望、市民や県民の理解を進める活動を地道にあきらめずに続けていくしかありませんが、もはや機運醸成という時期ではなく政治決断の時と考えております。



小山田 浩之／盛岡商工会議所 副会頭



藤村 文昭／盛岡商工会議所 副会頭



田口 幸雄／盛岡商工会議所 副会頭



鎌田 英樹／盛岡商工会議所 副会頭

鎌田／盛岡商工会議所90周年記念誌を見ると、最後の、未来への10年、というページで2020年ごろに設備完成稼働の構想でした。ILCの意義や日本における岩手県立地の最適性は十分すぎるほど理解に足りています。コロナ禍の閉塞感を払拭し未来への大きな希望をつなぐ意味も含めて、政府のいち早い決断に期待するしかないですね。

谷村／岩手県ILC推進協議会では盛岡のみならず全国各地、7年前にはワシントンに出向き私もプレゼンしたこともありましたが、会員の会費で運営しているからこそ要望に迫力が出るのです。その強みを再認識すべきです。

■まちづくりの推進・観光振興による中心市街地の活性化

菊池／続いて、第4の課題「まちづくりの推進・観光振興による中心市街地の活性化」について。盛岡バスセンターが昨年10月に開業、2024年4月には複合施設「monaka（もなか）」も開業予定です。中心市街地活性化について発言願います。

鎌田／高齢者や家族連れ、車を持たない若い世代など、徒歩あるいは公共交通機関を使って全方位から集う中心市街地が必要不可欠です。内丸地区では内丸プランの検討も始まっ

おかげです。100周年は全ての皆さんに対する感謝の節目。そういう年にしたいと思いつつに出席しました。

小山田／大正14年創立以降、困難を乗り越えて時代を先導いただいた諸先輩に敬意を評します。中小・小規模事業者の経営者の高齢化に伴う事業承継が今後は大きな問題になっていく反面、DX化によって地方で活躍できるビジネスモデルも増えていく。商工会議所という大きな枠の中で、旧ビジネスモデルから新ビジネスモデルへの継承が進むことを確信しています。昨年は盛岡商工会議所青年部の創立20周年式典で、後輩経営者には大きなエネルギーを感じました。また、女性会も積極的な活動を展開しています。両者と連携することで新しい時代をつくり上げていくのではないのでしょうか。できれば、ILC誘致が決定した中で100周年を迎えたいものです。

(3) 停滞から変革へ、期待と展望

菊池／最後に、100周年への期待とリンクしますが、今後の展望について各副会頭からお願います。

小山田／世界的にも国家間の軋轢、資源エネルギーの高騰、食糧危機などが経済停滞をもたらしています。ロシアのウクライナ侵攻が早期に終

ていますし、河南エリア再開発という言葉を聞いただけで期待感にふれ、頑張ろうと思えますよね。盛岡駅から八幡宮まで散策できる盛岡は、コンパクトで歩きやすいまちです。観光客も生活者も気楽に散策できる観光整備を、より一層進めていきたいものです。内丸エリア、医大跡地、盛岡短期大学跡地活用も含め、ワクワクする夢を語りたいですね。

田口／盛岡バスセンターが開業し、もりおか歴史文化館、もりおか啄木・賢治青春館、岩手銀行赤レンガ館など一体的な観光整備が必要です。八幡宮の表参道も活用しながら、もう少しうまく仕組みが作れるのではないかと思いますね。

藤村／会津若松の東山温泉では、古くからの歴史ある芸妓文化を観光資源に生かしているようです。盛岡芸妓の育成も商工会議所として、新しい視点で取り組む必要があると思います。若い世代は生活が成り立たないと続けていけませんから、もう少し観光資源として芸妓さんも自立できるようなウイン・ウインの仕組みを考えていいのではないかと思います。

小山田／まちづくりの視点でみると、集客できる拠点づくりも大事です。盛南地区には工業団地が整備され、物流拠点も2024年に着手す

結し、平和を取り戻してあらゆる問題が解決に向かって欲しいですね。新型コロナウイルス感染症についても、予防対策、予防接種や経口薬投入により感染リスクを最小限に抑えながら、経済活動がいち早く活性化することを目指してまいります。個人的には、今後3年間は谷村会頭を支えて、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

鎌田／最近情報の流れがあまりに早いですね。デジタル化、AI化が加速していますが、実際は自分も含めて情報に疎い事業者もたくさんいらっしゃると思います。そういうことをわかりやすく事業者の皆様へ伝える活動をするのが盛岡商工会議所。きめ細かい支援と一言で片付けるのは簡単ですが、会議所職員は懇切丁寧に説明して親身に相談に乗っています。その姿勢が会員の新規加入に繋がっている報告も受けていますので、これからも事業者の身近な頼りになる相談場所であり続けたいと思います。

藤村／様々なことが世界で起きていますが、私が気になるのは世界的な人口の増加です。昨年10月に世界人口は80億人に達しており、また、将来的には100億人を超すという試算も出ています。今の消費経済のままですと、この急激な人口の増加に耐えることができないのではと強い危機感を抱いています。既存の枠



菊池 透／盛岡商工会議所 専務理事

る予定です。また、「いわて盛岡ボールパーク（きたぎんボールパーク）」「盛岡南公園球技場（いわぎんスタジアム）」などスポーツ施設の整備も進み、賑わいの拠点として見込めます。北側では、2024年春に玉山区のバイパス沿いに道の駅が開業予定です。近隣の岩手県立大学や盛岡大学、盛岡農業高校など若者活躍の場としても活用可能ではないかと思います。

■盛岡商工会議所創立100周年への対応

菊池／まちづくりについても幅広い切り口から取り組む手段がありますね。最後に2025年に控えた「盛岡商工会議所創立100周年」につ

組みに捉われない新しい経済活動の形を模索していく必要を切に感じます。日本の経済三団体の一角を担う商工会議所という組織は事業者の集合体であり、業種や規模といった垣根を越えて様々な議論を活発にしていきたいと思っています。

田口／今の状況は先例がなく、過去から学ぶことが困難な現状です。デジタル化、DX等、技術進展が極めて早いのですが、これを活用しない手はありません。これをいかに商売に活用するかという一方、SDGsや脱炭素化という課題に企業として取り組むことも重要です。それを支援するのが商工会議所の役割だと思っています。

菊池／ありがとうございます。では、皆さんの話を踏まえて、会頭よりお願いいたします。

谷村／商工会議所の役割とは何かをもう一度考える時期かもしれません。まちづくりに関しては、昨年12月の時点で盛岡バスセンターの入場者数が予想を20%を上回ったそうです。その結果から見ると、コンパクトな施設ですが、そのサイズ感が市民の皆さんにフィットし、受け入れられているのかと思います。「monaka」が2024年にオープンすると河南地区も一層活性化し、人の動きが変わってくることは確かです。中

いて、自由にご発言いただけます。

藤村／私は90周年の時は記念事業実行委員会に所属しており、当会議所の歴史を知る機会となりました。100周年が商工会議所をいろんな意味で再構築する機会になることを願っています。

鎌田／昨年11月、優良商工従業員表彰の式典に出席しました。今回は33社91名が表彰。これはとてもありがたいことだと心から思いました。盛岡商工会議所が100周年を無事迎えるのも、会員企業の皆さんの支えがあつてこそ。それも長年にわたって勤務いただいた従業員の努力や精勤さの

津川をはさんで河南地区と内丸は一体です。期待しています。

震災復興完遂については、高校生の地元就職希望が増えて地元就職率も高まっています。一方で大学生の県内就職率は低い傾向にあります。我々経営者が自社をもっと魅力ある会社にする努力が必要です。きょうの話で、小山田さんから水産加工事業の話が出ました。沿岸では水産業だけでなく建設業も震災復興需要が終わり、地元の仕事が減ったことで内陸に仕事を求めてきております。県内全域にバランスの取れた受注活動が必要ですね。

価格転嫁についても価値あるものは自信を持って提供したい。特に小売業においては安売りの反発がメーカーにきてはたまりません。パートナーシップ構築宣言やDXなどの情報についても、商工会議所がより地方の実情に即した形でわかりやすく説明していく必要があると感じます。青年部や女性会については、頼もしいほどのパワーがあります。近い将来ぜひ青年部から正副会頭を輩出できるように、また、女性会頭も輩出できるように盛岡商工会議所をめざしたいですね。

菊池／それは期待感がありますね。本日は皆様からさまざまなご意見を頂戴し、大変有意義な機会となりました。ありがとうございます。